

園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

教育学科 高 橋 司

1. はじめに

幼稚園教育は、家庭との連携が大切なことはいうまでもない。

幼稚園と家庭での教育は、よく車の車輪にたとえられ、その一方だけが充実していても幼児の成長・発達に期待できるものではないといわれている。幼児を真に理解し、幼児本来の姿へ指導していくためには、教師（保育者）と保護者（両親）とが、相互の信頼関係に基づく密接な連携が必要となる。保育という営みは、教師一人の努力でその目的が達成されるものではなく、保護者との協力・強調があってはじめて達成されるものなのである。教師は保育の専門家としての立場から、保護者はそれぞれの家庭の実情をもった立場から、お互いの悩みや問題を出し合い、両者の意見を止揚したかたちで問題解決への糸口を見出すことが大切なのである。両者の間に友好的・信頼的な人間関係・相互関係が持続できることが望ましいが、なかなかそういう望ましい関係を維持していくことは大変なようである。

幼稚園を含めての学校と家庭（或は地域）との連携を重視する最近の動向としては、昭和61年の教育課程審議会の中間まとめに次のようなことが示されている。

家庭や地域社会との関連を重視しつつ、豊富な具体的、直接的な生活体験を通じて、幼児の望ましい発達を助長する（「中間まとめ」Ⅰ－5 各教科・科目等の内容について〔幼稚園〕）。

と家庭との連携の必要性を指摘しているし、昭和62年の臨時教育審議会の第三次答申においても、

学校は、家庭・地域社会などに対して努めて開かれたものとし、その教育について理解を得るようにするとともに、家庭・地域社会の建設的な意見をその運営に反映させるなどしてそれらとの連携を密にし、その教育力の向上にさらに努力する（第1章第5部開かれた学校と管理運営の確立〔1〕）。

と強固に連携の必要性が提唱されている。

特に近年、幼児を取り巻く環境は大きな変化の中にある。とりわけ都市化現象や核家族化現象や出生率の低下、遊び社会の消滅など、幼児にとって極めてマイナスの状況を呈しているといえる。更に家庭の中に目をやれば、教育機能の低下、子育ての一貫性のなさ、過保護、過干渉、保護者がしつけや教育を幼稚園に過度の期待をしすぎる、小学校教育の先取りを期待するなどが指摘される。幼児が育っていくためには、より一層、教師と保護者の連携が求められ、

必要とされている昨今にかかわらず、むしろ連携のあり方に多くの問題が生じてきているのが現状であるといえよう。

平成元年に改訂された『幼稚園教育要領』にも次のようなことが記されている。

幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。

とあり、昭和39年改訂の『幼稚園教育要領』の、

家庭との連携を蜜にし、家庭における教育と相まって教育の効果をあげるようにすること。と比較してみても、昨今のその重要性がわかる。そして、『幼稚園教育指導書』（増補版）に、教師が母親との信頼関係をどのようにつくり出していくかが重要な意味をもつことになる。と、母親との信頼関係をまず築くことを述べている。

折りしも、本年7月、文部省は、

近年の著しい変化は、家庭の教育機能にも様々な影響を及ぼしていることが指摘されています。加えて、本年9月から学校5日制が導入されようとしている現在、幼稚園と家庭との連携のあり方についても改めて見直してみることが大切（以下略）であると、幼稚園教育指導資料第2集『家庭との連携をはかるために』を刊行した。連携の考え方や留意点、具体的な実践事例も多く掲載されており注目されている。

かつてフレーベルが「学校と生活の結合、家の、ないし家庭の生活と学校の生活の結合、これこそ、この時期の完成された人間の発達や形成の、またわれわれを完成に導くべきこの時期の人間の発達や形成の、第1の、しかもどうしても欠くことのできない、要請である」⁹⁾と述べているが、家庭と幼稚園の関係に種々問題が生じている現在、適切な連携を図り、充実した幼稚園教育の実現に努力することが必要であるといえよう。

2. 家庭との連携

家庭との連携を考察する前に、連携とは何かということを押さえておく必要がある。

『広辞苑』によると、「互いに連絡をとり合って物事をすすめていくこと」とあるが、このことから幼稚園教育においては、園と家庭がそれぞれの立場からお互い理解・協力し、一貫した幼児の保育を推し進めていくことであると考えたい。

ところで、幼稚園教育の中において、家庭との連携にはどのようなものがあるのだろうか。

毎月定期的に発刊される園だより、コミュニケーション不足を補い、共同の育児記録ともいえるべき連絡帳、教師と親との個人的な話し合いやクラス懇談会、日常の活動や教育方針を理解してもらうための保育参観、家庭での幼児の様子や家庭環境を知るための家庭訪問、その他、入園前の保護者説明会、家庭調査、新入園児の面接、クラスだより、講演会などの保護者研修、送迎時の連絡、電話連絡、掲示板、保護者会活動、保育参加などが考えられる（表1参照）。

園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

表-1 保護者の保育参加例

項	①幼児・父母・教師が同じ経験を楽しむ	②親子のかかわりを豊かにする	③幼稚園での幼児の姿を知らせる	④幼児の生活経験を豊かにする	⑤父母の生活経験を豊かにする	⑥その他
基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が企画する ・父母は積極的に参加し楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が企画する ・幼稚園側より父母への直接的な働きかけ ・父母は実際に言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が企画する ・父母は幼児の園生活を見たり、教師から聞いたりする ・父母から教師(園)に対して直接、疑問点を聞いたり、要望を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師または父母が企画する ・父母は協力したり実行したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・父母が企画、運営する ・教師(園)は協力する ・保育内容と関連のある場合は連絡調査をする 	
月						
4	(入園式)		(入園式) ・誕生会参観(毎日) ・参観懇談(少)		<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の開始 ・サークル活動の開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問サークル ・人形劇・手芸 ・バドミントン
5			<ul style="list-style-type: none"> ・参観懇談(長) ・グループ別担当参観懇談 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児参加の廃品回収(毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA図書の貸出 ・茶話会(学級会) 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・親子炊事遠足 ・日曜参観(長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子歯みがき指導(長) ・(長)連絡帳(毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜参観(長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人形劇サークル発表(誕生会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子レクリエーション(少) ・社会見学、教材 ・教材づくり 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・子供まつり 		<ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子レクリエーション(長) ・PTA講演会 ・広報発行 	
8		<ul style="list-style-type: none"> ・おかあさんの生活表 				
9	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会懇談 	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーづくり(長) ・運動会 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化講習会 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜参観(少) 		<ul style="list-style-type: none"> ・日曜参観(長) 		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツレクリエーション ・バザー 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・母と子のおにぎり教室 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表会懇談 	<ul style="list-style-type: none"> ・人形劇サークル発表(誕生会) ・母と子のおにぎり教室 		
12	<ul style="list-style-type: none"> (発表会) ・もちつき大会 ・お店屋さんごっこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいとこさがし日記 		<ul style="list-style-type: none"> ・もちつき 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス別茶話会 ・文化講習会 ・広報発行 	
1		<ul style="list-style-type: none"> ・修了文集(長) 		<ul style="list-style-type: none"> ・観劇会 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・雪中運動会 		<ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談 		<ul style="list-style-type: none"> ・文化講習会 	
3	<ul style="list-style-type: none"> (修了式) 		<ul style="list-style-type: none"> ・懇談(長) ・参観懇談(少)(修了式) 		<ul style="list-style-type: none"> ・合同茶話会(少) ・合同お別れ会(長) ・広報発行 	

(文部省小学校課・幼稚園課編『初等教育資料』No.582 254頁)

少し古い調査であるが、今回の教育要領改訂の資料を得るために行われた「幼稚園教育に関する実態調査」によると、家庭との連携のために行っている措置として次のことがあげられている^②。

1. 各種懇談会 388ヶ園 2. 園だより 387 3. 保育参観 298 4. 連絡ノート類 230
5. 家庭訪問 201 6. 園行事への父母の参加 119 7. P. T. A活動(サークル, 研修) 114
8. 学級だより 104 9. 電話連絡 96 10. 講演会 79 11. 登降園児の話し合い 60
12. 手紙 43 13. 学年だより 17 など。

これによると、「各種懇談会」、「園だより」、「保育参観」などが特に多く実施されていることがわかる。

「保育という仕事の半分は、実はこの親の啓蒙、家庭教育への協力ということで占められていると考えなくてはならない」^③といわれるように、一つの保育の中の出来事を契機に協力的にも非協力的にもなるのが、保護者であると考えなければならない。その保護者が最も幼稚園教育を身近に感じるのは、何といても保育行事への保護者の参加という保育を目のあたりにした時であろうと考えられる。特に公開を原則とする園の三大大行事といわれる運動会、作品展、生活発表会にそのことがいえよう。日常的な保育活動と異なり、非日常的なるが故にハレの日である行事においては、保護者の様々な思いが交錯し、それらが園に向けられる時でもあるのである。

近年、出生率の低下に伴う園児数の現象は益々園の特色づくりに拍車をかけ、園児獲得の手段として華美でショー化された行事が横行する傾向にある。行事を通して家庭との連携を考え、望ましい保育行事のあり方の方途を探るまたとない機会ともいえるのである。

3. 保育行事の沿革

行事が保育の中に登場してきたのは何も新しいことではない。

すでに明治9年に開園した東京女子師範学校附属幼稚園は、翌年に昭憲皇太后を迎え、開業式を行った記録がある。その後、入園式や卒園式を行う園も登場し、儀式、祝典に関する行事は、明治期にその起源をおいている。

やがて、運動会が小学校の影響から実施されるようになり、遊戯会も大正期になると盛んになり今日の行事の基盤がほぼこの頃にかたちづくられている。

戦時中は、当然のごとく時局を反映した儀式的な行事が数多く実施されていた。

そして、昭和23年の『保育要領—幼児教育の手びき—』が刊行され、保育内容として12の項目があげられ、その中に「見学」と「年中行事」がしっかりと位置づけられたのである。

「見学」については、

幼児には、広い範囲にわたっていろいろの経験をさせることが望ましい。そしてその経験はなるべく实际的、直接的でなければならない。(中略)園外に出て行って、園内では経験

できない生きた直接の体験を与える必要がある。

として、商店街や公共施設への見学、公園、遊園地、動植物園への散策、遠足等の実施の方針が示されている。

また、「年中行事」の項には、

幼児の情緒を養い、保育に変化と潤いを与え、郷土的な気分を作ってやる上から、年中行事はできるだけ保育にとり入れることが必要である。

として、ひな祭、端午の節句、たなばた、ももの節句、月見、クリスマス、母の日、彼岸会、記念日、祝祭日などを取り上げることがすすめている。また、創立記念日や誕生日の会を開くこともよいとしている。こうして、行事が保育の内容として位置づけられていったのであるが、結果として、行事を奨励することになり、行事中心の保育へと移行するきっかけをつくったことにもなったのである。

昭和31年には、『幼稚園教育要領』が公布され6領域が示された。「行事」は「社会」の領域の中に含まれ、望ましい経験の8として、

幼稚園や家庭や近隣で行われる行事に興味や関心をもつ。

○遠足、運動会、発表会、誕生会、ひな祭など、幼稚園の行事に喜んで参加する。

○近くの小学校で催される運動会などの行事を見に行ったり参加したりする。

○みんなといっしょに国の祝日などを楽しむ。

また、第三章 指導計画の作成とその運営 1. 経験を組織する場合の着眼点6に、

季節とか、幼稚園や地域社会の行事を考慮して計画を立案すること。

(略) 幼児の生活は、季節の変化とか幼稚園や地域社会の行事によって、大きく影響される。それゆえ、幼稚園の教育効果を高めるために、これは季節や行事をじゅうぶん考慮において指導計画を立案する必要がある。

とあり、『保育要領』における行事の取り扱い方とは異なっていることがわかる。

続いて、昭和39年に『幼稚園教育要領』が改訂され、今回も「社会」の領域に含まれ、

三、身近な社会の事象に興味や関心をもつ

(六)、幼稚園の行事に喜んで参加する。

(七)、幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

と取り上げられ、更に、第三章指導および指導計画作成上の留意事項1. 指導上の一般的留意事項の(7)に、

幼稚園における行事の指導にあたっては、幼児の生活に変化やうるおいを与え、その充実に関与させるように指導すること。なお、地域的な行事や全国的な行事などについては、その教育的価値をじゅうぶん検討し、適切なものを精選すること。また、国民の祝日などについては、幼児の心身の発達程度に応じて、その意義を理解させ、それに親しみをもたせるようにすること。

と、行事を優先させることの危惧により、行事を精選することが強調されたのである。昭和43年には文部省より『幼稚園教育指導書』が発刊され、第5章指導および指導計画作成上の留意事項、第一部指導上の留意事項2. 特定のことがらに関する留意事項の中で、園行事の指導計画作成について次のように記されている。

幼稚園においてはいろいろな行事が行われるが、それは他の経験や活動と違って、主として幼稚園が計画し、幼稚園全体で行うものである。(略)

行事はとにかく形式が重んじられがちになるが、その行事の意義やねらいに即して、幼児が無理なく参加でき、いろいろな経験や活動が豊かに得られるようにし、幼児の生活に変化を与えるとともにその充実に役立つようにすることが大切である。(略)

なお、行事に父母の参加を求めたり地域社会と関連しながら行事などについては、幼稚園が主体性をもって計画するようにし、行事の意義や性格、参加のしかたなどに対して父母などがじゅうぶん理解するように努めることが大切である。

と、保護者に迎合しない園の主体性のもとの行事を求めている。

そして、平成元年に告示された『幼稚園教育要領』においては、行事は保育の内容から姿を消し、わずかに、「環境」のねらいの(10)に、

幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

とあるだけであるが、近年の幼児不在になりがちなる行事の風潮に対して、第3章指導計画作成上の留意事項の2、特に留意する事項の(6)において、

行事の指導に当たっては、幼稚園生活の自然な流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく参加できるようにすること。なお、それぞれの行事についてはその教育的価値を十分検討し、適切なものを精選し、幼児の負担にならないようにすること。

と、“自然な流れの中で” “主体的に楽しく” “幼児の負担にならない” ように取り組むべく戒めている。

4. アンケートについて

1). 調査の目的

幼稚園において行事の占める位置は大きい。勿論、賛否両論は承知の上で、そういわざるを得ない位大きい。特に園の三大大行事と呼ばれている運動会、作品展、生活発表会については、園にとっても、保護者にとってもその期待度は大なるものがあると考えられる。これらの行事は公開を原則としているが故に、保護者の行事に対して（ひいては保育方針、保育方法に対して）の正しい認識、理解がなければ、むしろ全く予期せぬ逆の結果を生み出す場合すらある。行事の成否が、園の保育を保護者に受容され理解されるのかのカギを握っているといっても過言ではない。そしてそれがプラスに働いた場合、園への信頼となり、協力、連携の絆を強めていくということになるのである。

そこで、保育行事についての先行研究・調査等^⑧の成果を踏まえ、園と家庭との連携という視点から、家庭で実施されている行事の状況、園行事へのかかわり方、出席の度合い、三大行事の実施前後の家庭での幼児の状態などを通して保育行事のあり方を明確にしようとするものである。

2). 調査方法

平成3年3月5日～12日迄、仏教系の私立A幼稚園（京都市）の保護者全員を対象に質問紙法でアンケートを実施した。

この時期は、A園にとっては生活発表会直後であり、年長児並びに年長児の保護者にとっては、園生活最後の大きな行事を終え、あとは修了式を待つのみという心境であろうし、今年入園した年中、年少児並びに保護者にとっては、おおよそ園の一年間の行事を経験してきた直後にあたる。

調査の実施時期としては、学年末の繁多な折りということで、園にも保護者にも迷惑な調査と受け取られても仕方のないところであるが、この時期を逸しては聞くことのできない貴重な声を聞くことができるのではという期待をもっている。

3). 調査内容

調査内容は次に示す通りである（詳細については参考資料参照）。

設問① 保護者にとっての思い出の行事。

設問② 子供が喜んでいた行事、嫌がっていた行事。

設問③ 家庭で実施している行事。

設問④ 家庭で話をしてあげた行事（祝日、記念日など）。

設問⑤ 保護者が出席した行事。

設問⑥ 家庭で話題になった仏教行事。

設問⑦ 1) 運動会前の子どもの様子。

2) 運動会後の変化。

3) 参加した人。

設問⑧ 1) 作品展前の子どもの様子。

2) 作品展後の変化。

3) 参加した人。

設問⑨ 1) 生活発表会前の子どもの様子。

2) 生活発表会後の変化。

3) 参加した人。

4) 生活発表会の感想。

4). 調査人数及び回答率

調査人数は、年長児保護者102名、年中児保護者84名、年少児保護者67名、総数253名で、

回収されたのは、年長75名、（回収率75.5%）、年中75名（回収率89.3%）、年少53名（回収率79.1%）の総数203名（回収率80.2%）となっている。

5）、調査の結果と考察

① 保護者にとって思い出に残っている行事（図-1、表-2 参照）。

図-1 保護者にとって思い出の行事（学年別）

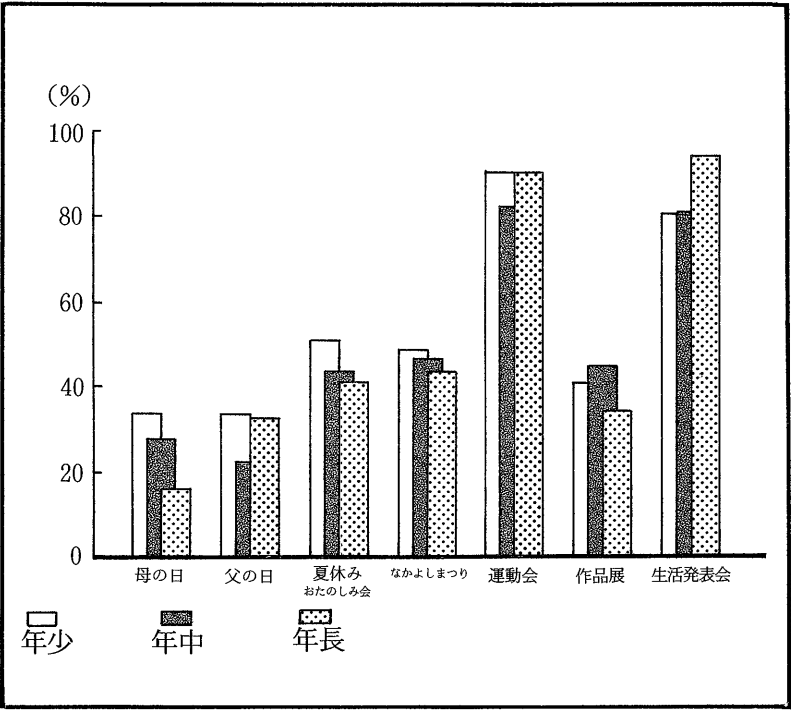


表-2 (％)

	母 の 日 保 育 参 観	父 の 日 保 育 参 観	夏 休 み おたのしみ会	な か よ し ま つ り	運 動 会	作 品 展	生活発表会
年 少	34.0	34.0	50.9	49.1	90.6	41.5	81.1
年 中	28.0	22.7	44.0	46.7	82.7	45.3	81.3
年 長	16.0	33.3	41.3	46.7	90.7	34.7	94.7
全 体	25.1	29.6	44.8	46.3	87.7	40.4	86.2

三大大行事の中では、作品展が意外に低い割合（40.4%）であることがまず目につく。生活発表会（86.2%）についてはやはり修了間近の行事として年長の保護者の印象度が高い。母の日、父の日保育参観の印象度は低い割合（25.1%、29.6%）である。今年入園の年中、年少児の保護者にとっては入園式後初めての園生活の参観にかかわらず印象度が低いということは、特別に催しもののない日常保育の参観という地味さからくるのであろうか。

園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

② 幼児の喜んでいた行事、嫌がっていた行事（表-3 参照）。

喜んでいた行事においては遠足（84.2%），が第1位である。以下，仲よしまつり（66.0%）， 風あげ大会（63.5%）夏休みおたのしみ会（62.6%）となっている。いわゆるハレの日の行事が喜ばれる傾向にあるといえる。母の日（43.8%），父の日（50.7%）保育参観については，保護者の印象度以上に幼児にとっては好まれている行事であるといえる。一方，嫌がられていた行事は，実数にすると1～5人と数は少ないが存在する。特に年少児にその傾向があり，避難訓練は各学年に存在しているのが特徴である。

表-3 幼児の喜んでいた行事，嫌がっていた行事（%）

	母の日	父の日	七夕	避難訓練	健康診断	夏休みおたのしみ会	なやましりまつり	運動会	作品展	風あげ大会	生活発表会	遠足
年少	41.5	49.1	30.2	41.5	17.0	56.6	58.5	73.6	43.4	66.0	58.5	84.9
	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	1.9	1.9	0.0	3.8	3.8	0.0
年中	40.0	7.7	26.7	20.0	13.3	68.0	70.7	72.0	44.0	56.0	74.7	89.3
	0.0	0.0	0.0	4.0	2.7	2.7	0.0	2.7	0.0	1.3	1.3	0.0
年長	49.3	8.1	33.3	37.3	17.3	61.3	66.7	82.7	52.0	69.3	74.7	78.7
	0.0	16.7	0.0	2.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	1.3
全体	43.8	7.9	30.0	32.0	15.8	62.6	66.0	76.4	46.8	63.5	70.4	84.2
	0.0	3.7	0.0	3.4	1.5	2.0	0.5	1.5	0.0	2.0	1.5	0.5

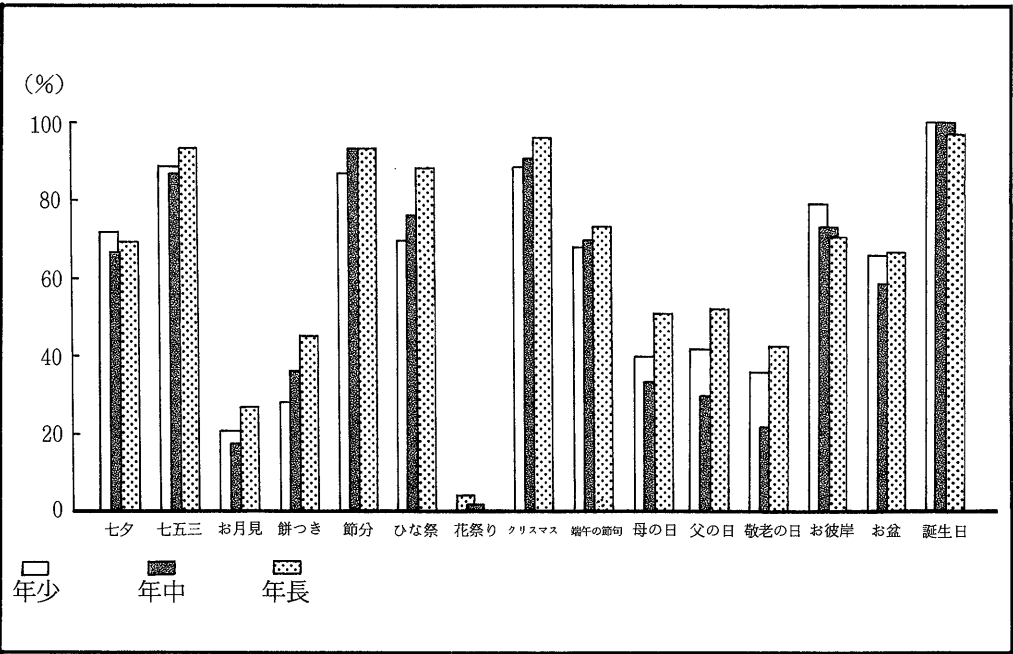
③ 家庭で実施している行事（表-4，図-2 参照）。

クリスマス（92.1%），節分（91.6%），七五三（89.7%），ひな祭り（78.8%），端午の節句（79.4%），七夕（69.0%）などの伝統行事は，結構実施されている。予想以上に，彼岸（73.9%）と盆（63.5%）の仏教行事（恐らくは墓参りと考えられるが）も家庭に定着していることがわかる。

表-4（%）

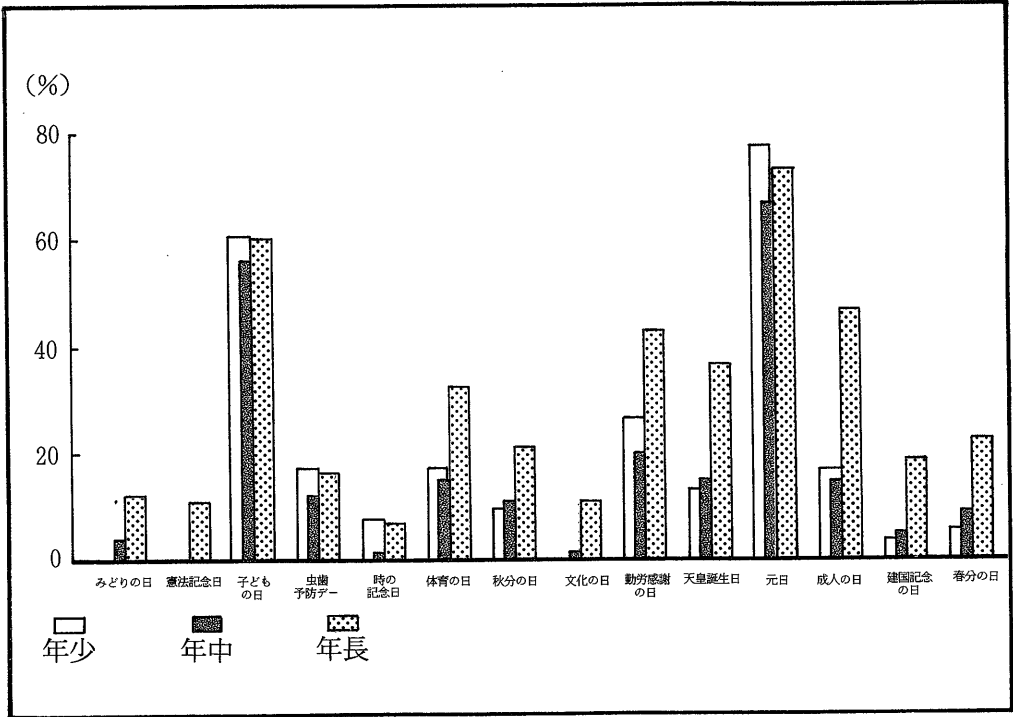
	七夕	七五三	お月見	餅つき	節分	ひな祭	花祭り	クリスマス	端午の節句	母の日	父の日	敬老の日	お彼岸	お盆	誕生日
年少	71.7	88.7	20.8	28.3	86.8	69.8	3.8	88.7	67.9	39.6	41.5	35.8	79.2	66.0	100.0
年中	66.7	86.7	17.3	36.0	93.3	76.0	1.3	90.7	69.3	33.3	29.3	21.3	73.3	58.7	100.0
年長	69.3	93.3	26.7	45.3	93.3	88.0	0.0	96.0	73.3	50.7	52.0	42.7	70.7	66.7	97.3
全体	69.0	89.7	21.7	37.4	91.6	78.8	1.5	92.1	70.4	41.4	40.9	33.0	73.9	63.5	99.0

図-2 家族で実施している行事



④ 家庭で話をしてあげた行事 (表-5, 図-3 参照)。

図-3 家庭で話をしてあげた行事



園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

表-5

(%)

	みどりの 日	憲 法 記念日	子 供 の日	虫 予 デ	歯 防 ー 時 日 記念日	体 育 日	秋 分 日	文 化 日	勤 感 する 日	労 謝 日	天 皇 誕生日	元 日	成 人 日	建 国 記念日	春 分 日
年 少	0.0	0.0	60.4	17.0	7.5	17.0	9.4	0.0	26.4	13.2	77.4	17.0	3.8	5.7	
年 中	4.0	0.0	56.0	12.0	1.3	14.7	10.7	1.3	20.0	14.7	66.7	14.7	5.3	9.3	
年 長	12.0	10.7	60.0	16.0	6.7	32.0	32.0	10.7	42.7	36.0	73.3	46.7	18.7	22.7	
全 体	85.9	3.9	58.6	14.8	4.9	21.7	21.7	4.4	30.0	22.2	71.9	27.1	9.9	13.3	

設問③の伝統行事に比して、記念品、祝日についての関わりは低い。元日の高い割合（71.9％）以外は、子どもの日が過半数（58.6％）を超える位である。

⑤ 保護者が出席した行事（表-6，図-4 参照）。

クラス別懇談会（99.0％），個人別懇談会（98.5％），母の日保育参観（98.0％）父の日保育参観（93.1％），は当然のこととして高率である。花まつり（79.3％）を除く仏教行事と講演会（第1回34.0％，第2回20.2％），仏教教養講座（11.3％）の低い参加率は，仏教を建学の精神とする園としては寂しい割合であるが，年長児保護者（18.7％）が他の学年（年中8.0％，年少5.7％）と比べて参加率が高いということは，建学の精神が徐々にではあるが保護者

図-4 保護者が出席した行事

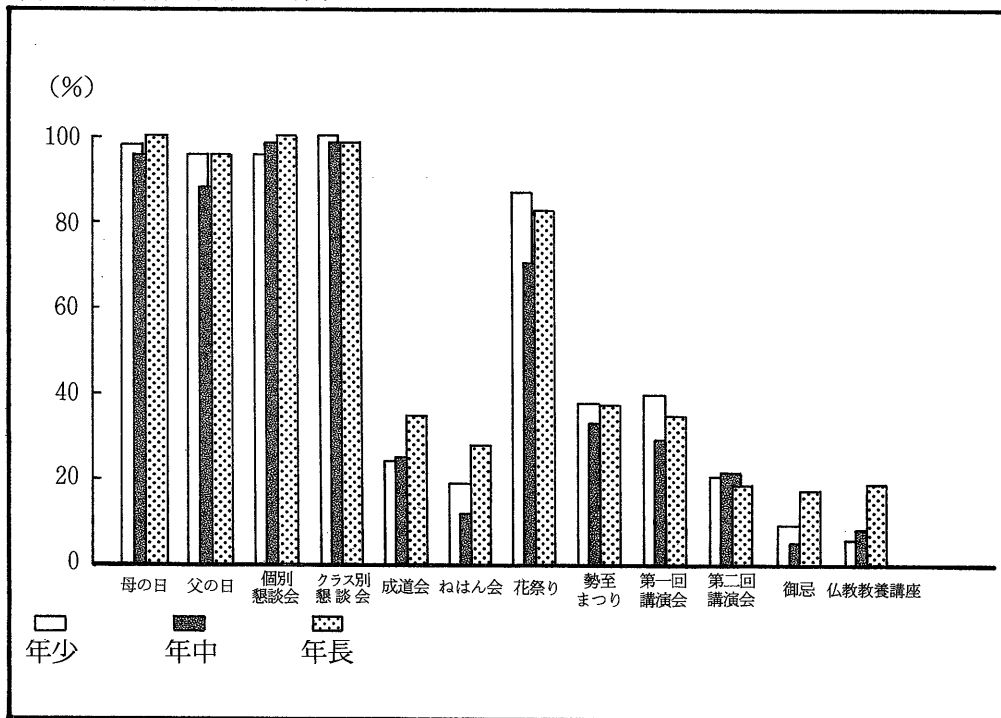


表-6 (％)

	母の日	父の日	個別懇談会	クラス別懇談会	成道会	ねはん会	花祭り	勢至まつり	第一回講演会	第二回講演会	御忌	仏教講	教養座
年少	98.1	96.2	96.2	100.0	24.5	18.9	86.8	37.7	39.6	20.8	9.4	5.7	
年中	96.0	88.0	98.7	98.7	25.3	12.0	70.0	33.3	29.3	21.3	5.3	8.0	
年長	100.0	96.0	100.0	98.7	34.7	28.0	82.7	37.3	34.7	18.7	17.3	18.7	
全体	98.0	93.1	98.5	99.0	28.6	19.7	79.3	36.0	34.0	20.2	10.8	11.3	

に浸透してきているということがいえようか。

⑥ 家庭で話題になった仏教行事（表-7、図-5 参照）。

花まつりは、設問⑤の参加率とほぼ同じ割合（76.8％）で家庭でも会話がもたれている。花まつりは花御堂を献華で飾り、甘茶を捧げるという行為があり印象度は強いが、勢至まつり（47.3％），

図-5 家庭で話題になった仏教行事

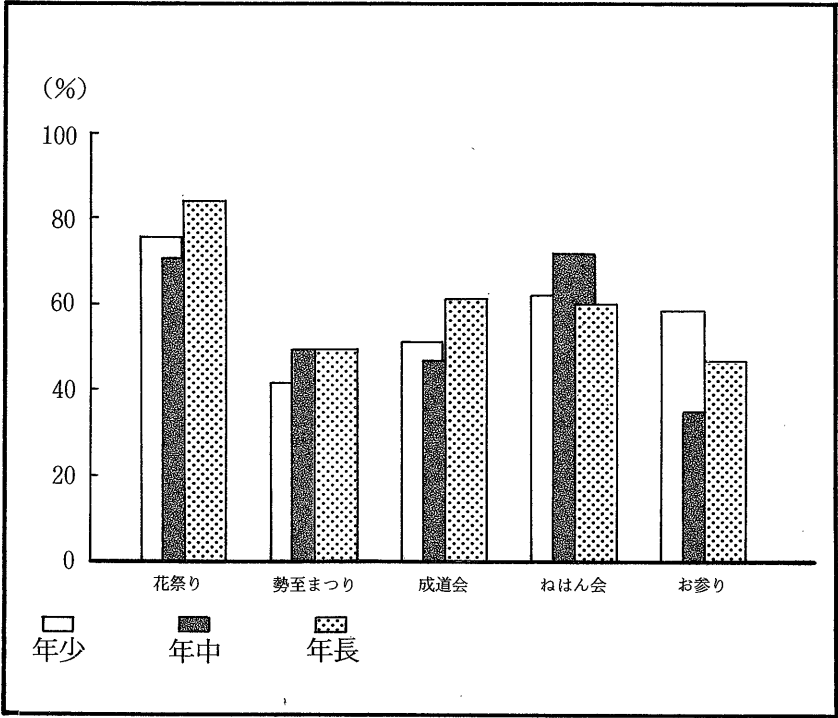


表-7 (％)

	花祭り	勢至まつり	成道会	ねはん会	お参り		花祭り	勢至まつり	成道会	ねはん会	お参り
年中	75.5	41.5	50.9	62.3	58.5	年長	84.0	49.3	61.3	60.0	46.7
年少	70.7	49.3	46.7	72.0	34.7	全体	76.8	47.3	53.2	65.0	45.3

成道会 (53.2%), ねはん会 (65.0%) という比較的地味な行事については、設問⑤の参加率の低さから判断すると、その印象を幼児自らが家庭で話題にしていることが推測できる。

⑦ 運動会 (表-8, 図-6, 表-9, 図-7, 表-10, 図-8、表-11参照)。

運動会前の様子については、年長児と年中児はほぼ同じ傾向を示しているが、年少児は「いつもと変化なかった」(22.6%)が多く、「よく話をしていた」(9.4%)が少ない。「心配していた」「嫌がっていた」幼児もわずかながらいるということを忘れてはなるまい。

終了後の変化については、年長児ほど顕著で、年少児ほど少ない。

日曜日に実施が予定されていたが、本年度は、雨天のため平日に実施されたので、父親の参加は少ない(29.1%)。

図-6 運動会前の様子

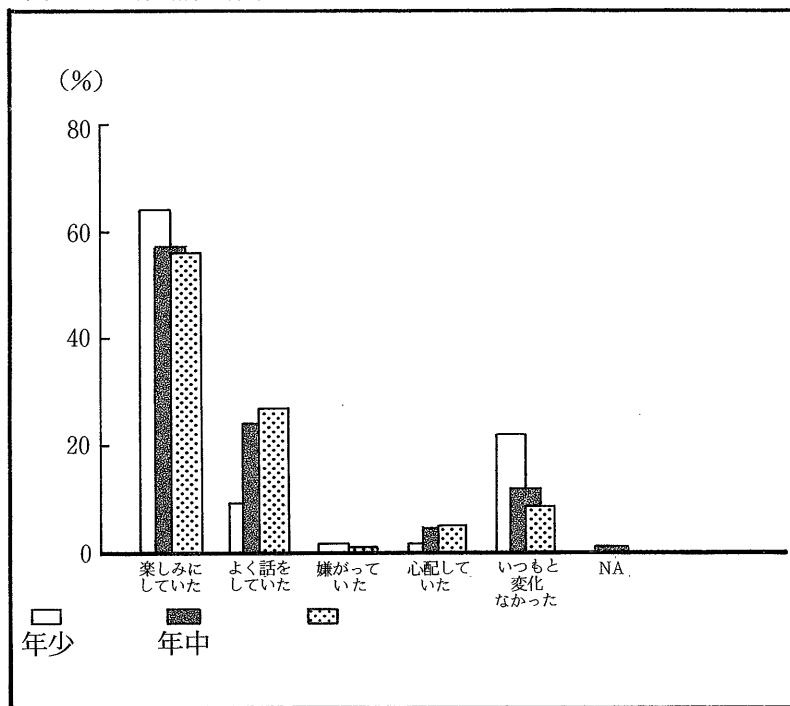


表-8

(%)

	楽しみにしていた	よく話をしていた	嫌がっていた	心配していた	いつもと変化なかった	NA
年少	64.2	9.4	1.9	1.9	22.6	0.0
年中	57.3	24.0	0.0	5.3	12.0	1.3
年長	56.0	26.7	1.3	5.3	9.3	0.0
全体	58.6	21.2	1.0	4.4	13.8	0.5

図-7 運動会後の変化

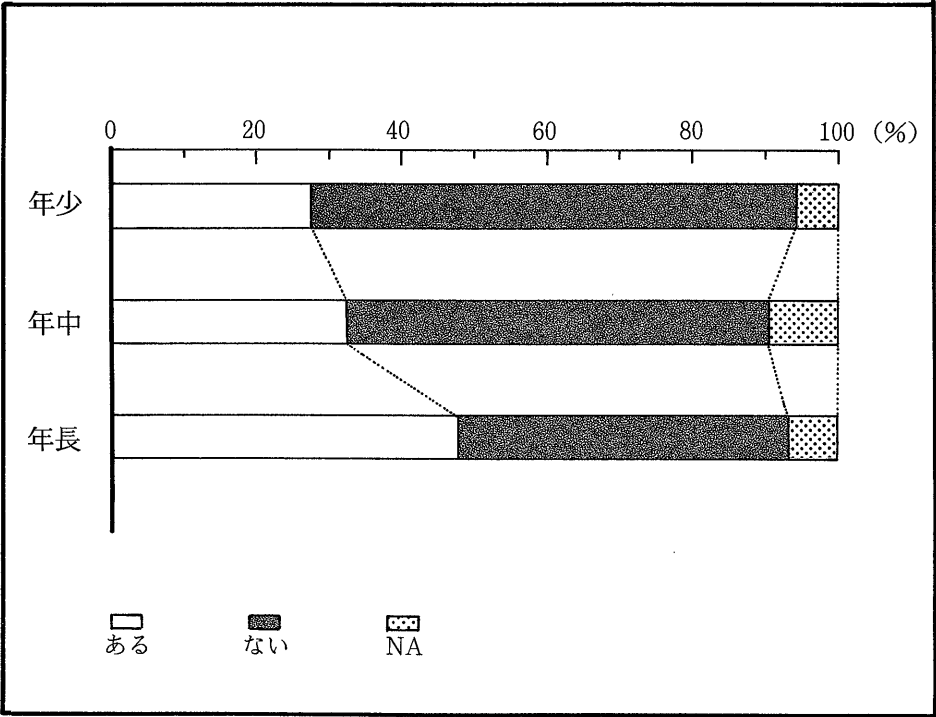


表-9 (％)

	あ る	な い	N A
年 少	28.3	67.9	5.7
年 中	33.3	58.7	9.3
年 長	48.0	45.3	6.7
全 体	37.4	56.2	7.4

表-10 運動会後の変化(「ある」の内容)

年 少	走ること自信がつく，興味が出る 4名 友だちと出来て嬉しそう 3名 競争心が増す 3名 集団行動がとれるようになる 2名 順位を意識するようになる 1名
年 中	順位にこだわりがじめる，競争心が芽生える 4名 自信がつく 4名 走ること興味をもつ 3名 仲間意識が強まる 3名

園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

	<p>スポーツが好きになる 2名</p> <p>何事にも一生懸命取り組むようになる 2名</p> <p>リレーごっこをする</p> <p>自主性が育つ 1名</p> <p>積極的になる 1名</p> <p>走るのが嫌になる 1名</p>
年 長	<p>走ることに関心をもつ 7名</p> <p>友達関係が広がる、仲間意識が強まる 6名</p> <p>自信がつく 6名</p> <p>勝つ喜びがわかる 3名</p> <p>頑張るとよい結果が出ることがわかる 3名</p> <p>皆で力を合わせることの喜びがわかる 2名</p> <p>表現することの喜びがわかる 1名</p> <p>イキイキする 1名</p> <p>何事も一生懸命取り組むようになる 1名</p>

図-8 運動会に参加した人

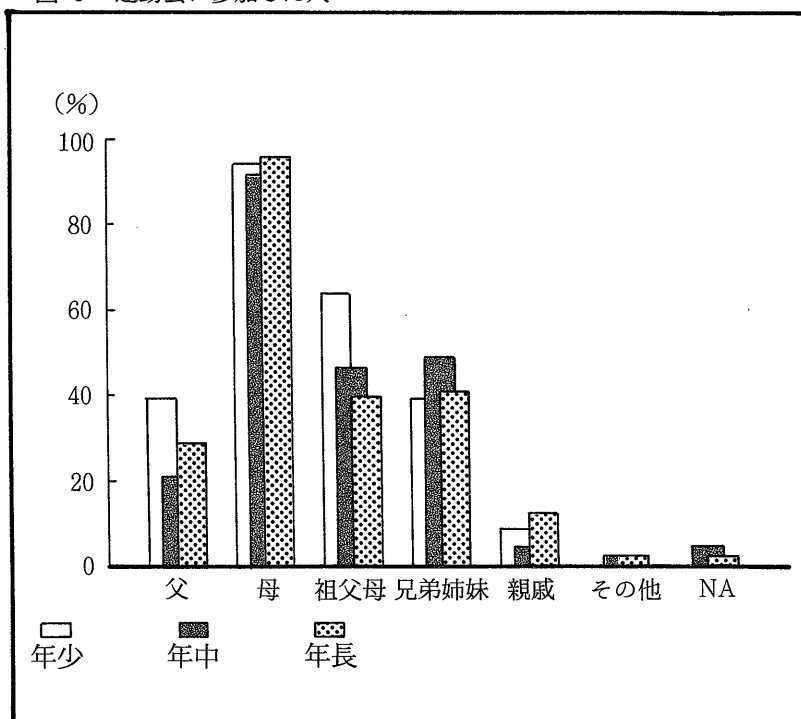


表-11

(%)

	父	母	祖 父 母	兄弟姉妹	親 戚	そ の 他	N A
年 少	39.6	94.3	64.2	64.2	39.6	0.0	0.0
年 中	21.3	92.0	46.7	46.7	49.3	2.7	5.3
年 長	29.3	96.0	40.0	40.0	41.3	2.7	2.7
全 体	29.1	94.1	48.8	48.8	43.8	2.0	3.0

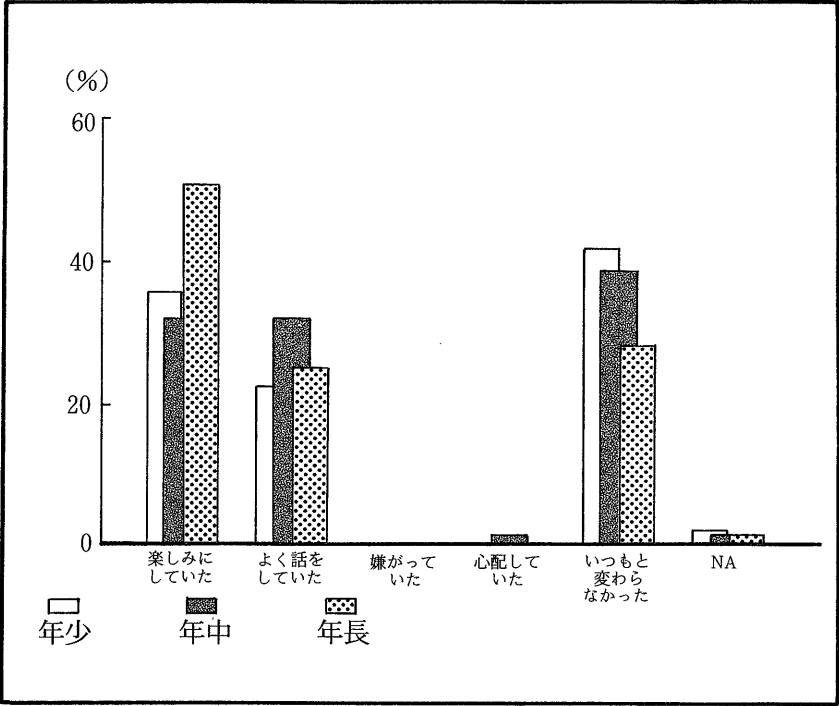
⑧ 作品展(表-12, 図-9, 表-13, 図-10, 表-14, 図-11、表-15参照)。

運動会と比べて「いつもと変化なかった」(35.5 %)が多く、「楽しみにしていた」(39.9 %), 「よく話をしていた」(27.1 %)が少ない。特に年少児にその傾向が強く、運動会と異なり事前の練習もなく、作品展を把握できないのであろう。

終了後の変化は、年長児は少なく(「ない」が74.7%), 年少児はほぼ同じ傾向を示している。

運動会に比べて祖父母の参加率が低い(16.3 %) ことも特徴としてあげられる。

図-9 作品展前の様子



園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

表-12 (％)

	楽しみにして いた	よく話を していた	嫌がった い	心配して いた	いつもと変 化なかった	N A
年少	35.8	22.6	0.0	0.0	41.5	1.9
年中	32.0	32.0	0.0	1.3	38.7	1.3
年長	50.7	25.3	0.0	0.0	28.0	1.3
全体	39.9	27.1	0.0	0.5	35.5	1.3

図-10 作品展後の変化

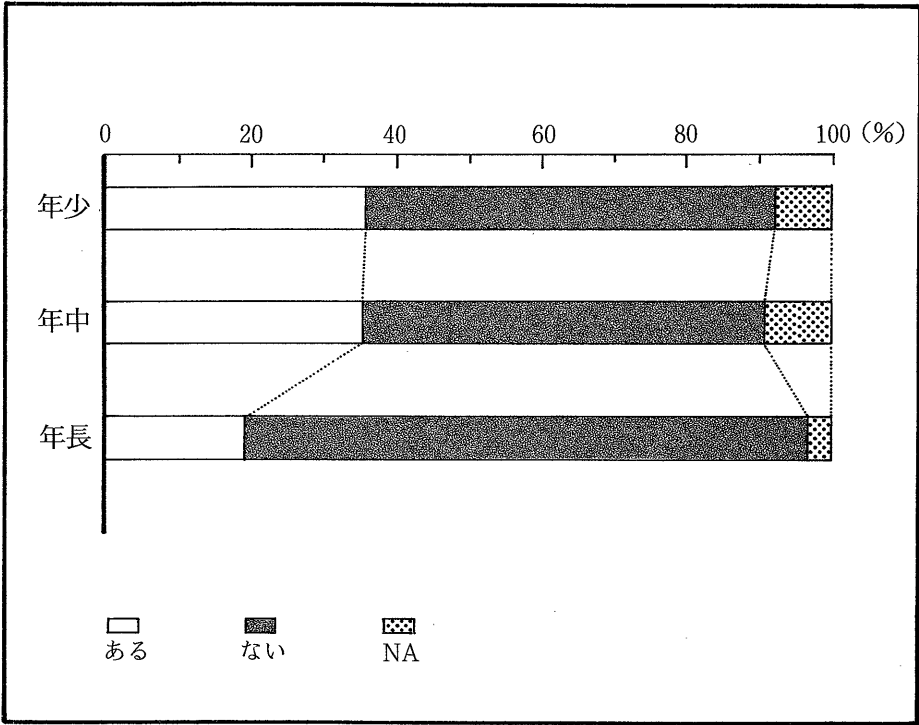


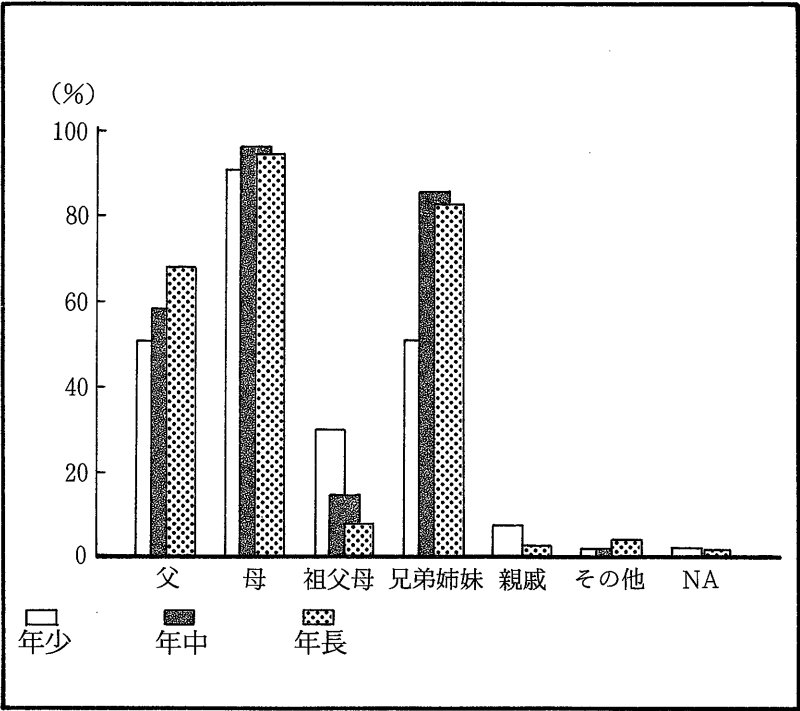
表-13 (％)

	あ る	な い	N A
年 少	35.8	56.6	7.5
年 中	36.0	56.0	9.3
年 長	18.7	74.7	2.7
全 体	29.6	63.1	6.4

表-14 作品展後の変化（「ある」の内容）

年少	制作をするようになる 11名 作品作りの過程の話をする 2名 作品を大切にする 2名 廃品に興味を示すようになる 1名 絵をよくみる 1名 自信ができた 1名
年中	制作をするようになる 16名 絵を描くようになる 4名 作品を大切にする 2名 作品の解説をする 1名 竹馬に興味を示すようになる 1名 がっかりしていた 1名 本を読むようになった 1名
年長	制作をするようになる 7名 作品の解説をする 5名 他の作品を記にかける 1名 作品の本をよみ始める 1名 作ったものへの執着心をみせる 1名

図-11 作品展に参加した人



園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

表-15

(%)

	父	母	祖 父 母	兄 弟 姉 妹	親 戚	そ の 他	N A
年 少	50.9	90.6	30.2	50.9	7.5	1.9	1.9
年 中	58.7	96.0	14.7	85.3	0.0	1.3	0.0
年 長	68.0	94.7	8.0	82.7	2.7	4.0	1.3
全 体	60.1	94.1	16.3	75.4	3.0	2.5	1.0

⑨ 生活発表会(図-12, 表-16, 図-13, 表-17, 表-18, 図-14, 表19, 図-15, 表-20参照)。

運動会に比べて「楽しみにしていた」(50.7 %)が減り, 「よく話をしていた」(41.9 %)が増え, 家庭での話題になっていることがわかる。反面, 「嫌がっていた」(1.5%), 「心配していた」(4.4%) 幼児も, 運動会, 作品展と比べて多い。

終了後の変化については, 運動会とほぼ同じ傾向である。

参加者については, 2月下旬の平日の3日間ということで, 父親の参加は少ない(18.7%)。

今回の調査で一番知りなかった生活発表会での保護者の心情については, 「感謝の気持ちをもつ」(56.7 %), 「成長が認められた」(45.3 %) がそれぞれ過半数を占め, 一年の最後の行事としての役割は十二分に果たしている。また, 「家庭と違った姿を見た」(29.1 %), 「幼稚園生活の一端を見た」(25.6 %), 「教育方針がわかった」(21.2 %), 「日常の姿が出ていた」(11.8 %), 「生活発表会の意義がわかった」(5.9%) といった本来のねらいも保護者に認識されている。しかし, 一方で, 「当日の出来ばえが気になる」(17.7 %), 「他の子どもと比較する」(11.8 %), 「どのような役割か気になる」(10.8 %), 「担任の指導が気になる」(7.4%), 「他のクラスと比較する」(0.5%) といった正に本音の回答に見られるように, 公開を原則とした時の保護者の目がどのようなものであるのかを示唆しているといえる。

表-16

(%)

	楽しみにしていた 参観	よく話を していた	嫌がって いた	心配して いた	いつもと変 化なかった	そ の 他	N A
年 少	49.1	35.8	1.9	1.9	17.3	1.9	0.0
年 中	49.3	41.3	2.7	4.0	13.3	2.7	0.0
年 長	53.3	46.7	0.0	6.7	6.7	1.3	1.3
全 体	50.7	41.9	1.5	4.4	11.8	2.0	0.5

図-12 生活発表会前の様子

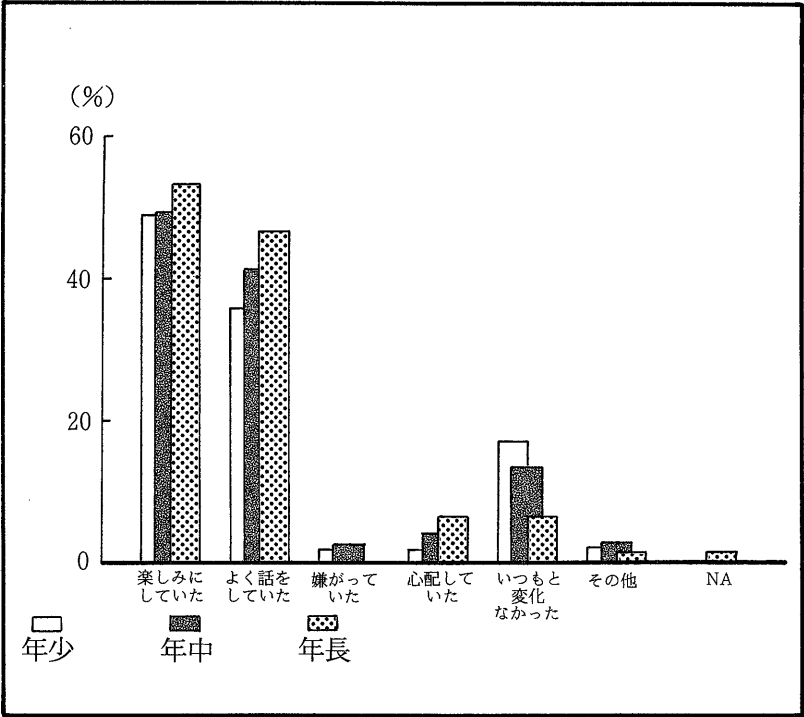
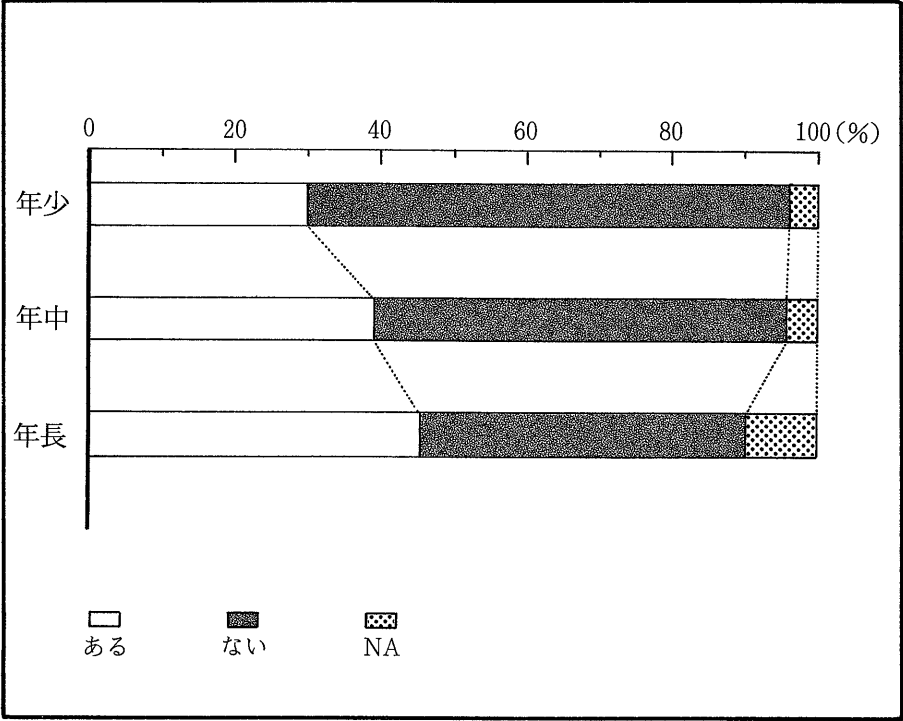


図-13 生活発表会後の変化



園と家庭を繋ぐ保育行事についての一考察

表-17

(%)

	ある	ない	N A		ある	ない	N A
年 少	30.2	66.0	3.8	年 長	45.3	44.0	9.3
年 中	40.3	57.3	4.0	全 体	39.4	54.7	5.9

表-18 生活発表会後の変化（「ある」の内容）

年 少	うたやセリフをいう 7名 年長児のモノマネをする 3名 活発になる 1名 友達関係が広がる 1名 人前で発表できるようになる 1名 生き物に対しての見方ができる 1名 自信ができた 1名
年 中	うたやセリフをいう 10名 自信ができた 7名 本を読むようになる 3名 友だちと一緒にする喜びがわかる 2名 年長児のモノマネをする 2名 ごっこに発展する 1名 なわとびをよくする 1名
年 長	自信ができた 10名 いつまでも役になりきっている 10名 本を読むようになる 4名 友だちと一緒にする喜びがわかる 2名 落ち着きが出る 1名 人前で発表できるようになる 1名 演じたものを作る 1名

図-14 生活発表会に参加した人

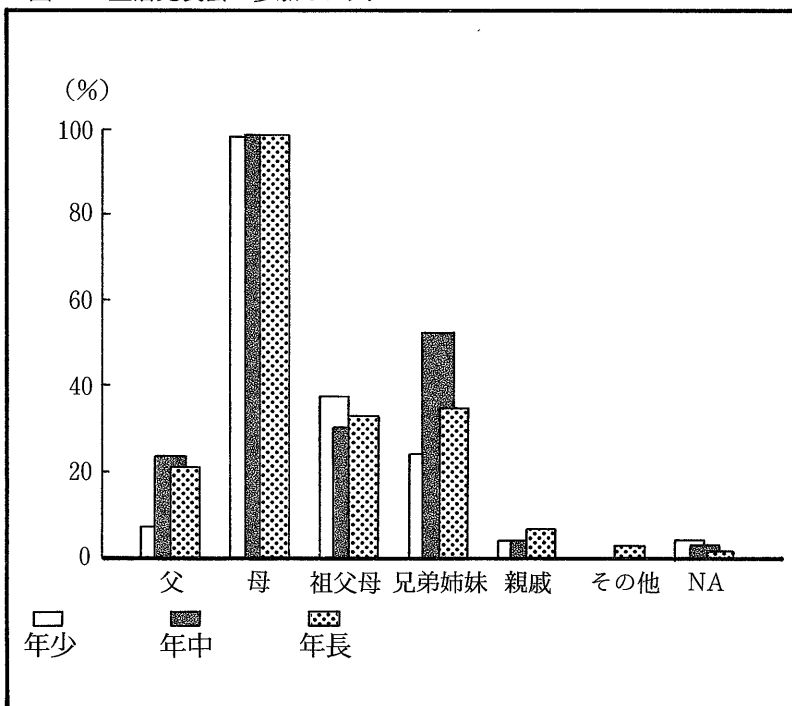


表-19 (％)

	父	母	祖 父 母	兄弟姉妹	親 戚	そ の 他	N A
年 少	7.5	98.1	37.7	24.5	3.8	3.8	3.8
年 中	24.0	98.7	30.7	52.0	4.0	4.0	2.7
年 長	21.3	98.7	33.3	34.7	6.7	2.7	1.3
全 体	18.7	98.5	33.5	38.4	4.9	1.0	2.5

図-15 生活発表会に対する保護者の感想

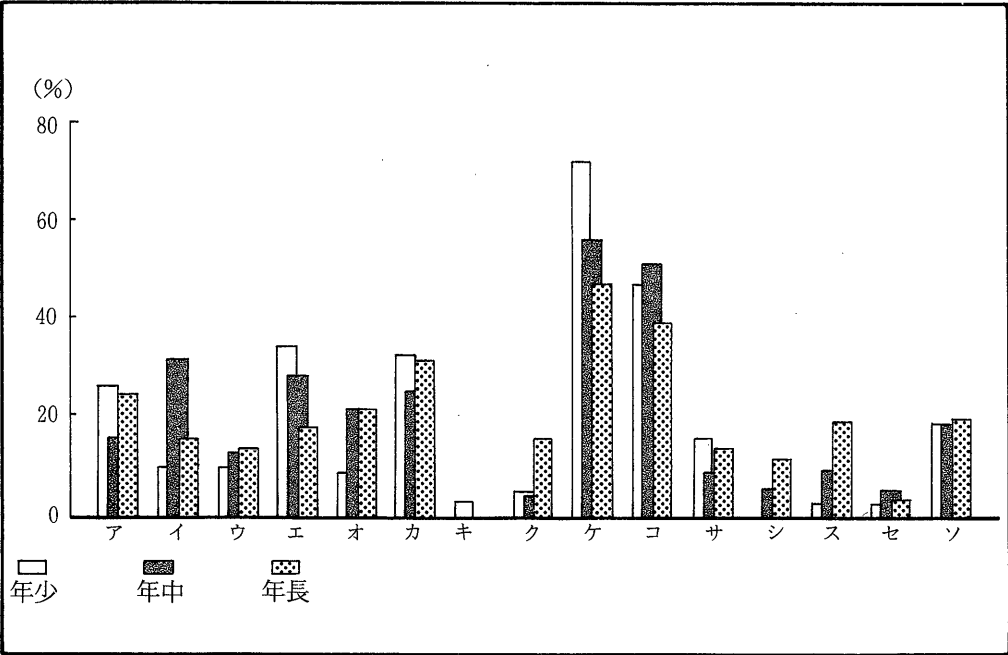


表-20 (％)

	年 少	年 中	年 長	全 体
ア 幼稚園の教育方針がよくわかった。	26.4	14.7	24.0	21.2
イ 集団行動がきちりとれていた。	9.4	30.7	14.7	19.2
ウ 自分の子どもと他の子どもを比較していた。	9.4	12.0	13.3	11.8
エ 幼稚園生活の一端をかいまみるとができた。	34.0	28.0	17.3	25.6
オ わが子の当日のできばえが気になった。	7.5	21.3	21.3	17.7
カ 家庭では見られない姿をみるのができた。	32.1	25.3	30.7	29.1
キ わが子のクラスと他のクラスを比較していた。	1.9	0.0	0.0	0.5
ク 担任がどのように指導しているか気になった。	3.8	2.7	14.7	7.4
ケ ここまで成長したことを幼稚園(担任)に感謝の気持ちをもった。	71.7	56.0	46.7	56.7
コ 一年間の成長が深められた。	47.2	50.7	38.7	45.3
サ 日常の姿がそのままできていた。	15.1	8.0	13.3	11.8
シ 生活発表会の意義がわかった。	0.0	5.3	10.7	5.9
ス わが子がどのような役(或は楽器の担当)をしているか気になった。	1.9	9.3	18.7	10.8
セ 質素な生活発表会だと思った。	1.9	5.3	2.7	3.4
ソ 一日で全てのクラスを見たかった。	18.9	18.7	20.0	19.2

5. 連携を求めて

家庭の教育機能の低下が叫ばれて久しい。今回の調査においても本来家庭で実施すべき方がより効果が上がると思われる行事に関しても予想外に実施率が低いことが明らかになった。

次にあげる実践は、公立B幼稚園（京都府下）の勤労感謝の日を前にした降園前の保育室での活動である。この比較的地味な行事を通しての連携を考えてみたい。

11月22日 主 題 勤労感謝の日

- ねらい ・いろいろなところで働いている人々に感謝の念をもつ
・働くことの喜びを味わい、自分の仕事に責任をもつ

た し か め （どのよう に 知 っ て い た か）	
教 師	園 児
<ul style="list-style-type: none">・お当番さん、明日のカレンダーを出してください。・明日は日曜日でないけれど幼稚園はお休みね。みんな何故お休みか知っていますか。・明日は、勤労感謝の日です。聞いたことありますか。・みなさんのお父さん、お母さんの仕事を知っていますか。	<ul style="list-style-type: none">・旗がしてあるぞ。明日はやすみだぞ。・家の人とどっかに行くさかいやすみや。・仕事をしている人にありがとうというひなんやて、おかあさんにきいたわ。・うん、ある。・知らなかったわ。・お父さん、工場に行って自動車を修理している。・お母さん、家でご飯炊いたり、洗濯したりする。僕のお母さん、店で働いているんやで。・僕が幼稚園来るとき洗濯してた。・僕のお母さん赤ちゃんの世話ばかり。・お母さんお使い行ってるわ。そして晩ご飯の用意もしてる。お掃除もしてるしお風呂も沸かすし、女に生まれたらお母さんにならんなんもん、忙しい、忙しい。

教育学部論集

あたえる（どのように知らせるか）	
教 師	園 児
<ul style="list-style-type: none"> • みんなの家でもお父さんや、お母さんが一生懸命働いておられるからみんなも自分でできることは手伝いましょう。 • みんなのお父さんやお母さんの他にも大勢の人たちが色々のお仕事をしておられるのよ。みんなが幼稚園に来るとき、園の前でお巡りさんが交通整理してくださるわね。これも大変なお仕事ですね。 • ですから、明日は日本の国の誰もが働いていることや、他の色々のお仕事をして下さる人に心から御礼を言う日なんです。 	<ul style="list-style-type: none"> • 先生、この間、消防車が幼稚園に来たとき、乗っていた人かて大事なんや、火事を消すもん。

も と め（どのように考えさせたか）	
教 師	園 児
<ul style="list-style-type: none"> • 大人の人はばかり働いてもらわなくても自分達が何か大人の人たちにしてあげられるお仕事はありませんか。 • おまわりさんのお仕事知っていますか。 • お百姓さんのお仕事は。 • 他にどんな仕事をしている人があるでしょうか。 • そうですね、明日は色々なお仕事を毎日しておられる人たちに心からありがとうを言う日です。 • 幼稚園では、みんなも先生たちと一緒に絵を描いたり、作ったりして遊んだ後かたづけをしりしてお仕事をするわね、しない子はどうかしら。 	<ul style="list-style-type: none"> • たばこを取ってきてあげる。 • 新聞をとってきてあげる。 • おかたづけもする。 • 交通整理。 • どろぼうをつかまえる。 • 種まき、草取り。 • 救急車の運転手、本屋さん、お家を建てる人、左官屋さん、自動車をつくる人、オートバイをつくる人。 • うちのお父さん、学校の先生や。 • なまけもの。 • そやそや。

自分たちの仕事（例えば当番活動や役割分担）や両親の仕事などの身近な実例を通して、本来の行事のもつ主旨を少しでも理解させたいが、単に、感謝ということばを通してそのねらいが達成されたと思ひ込むことは避けねばならない。教師として留意すべきことは、こういった園での保育の活動を家庭でフォローしてもらえよういかに努力するかということにある。連携の様々な手段を通して活動の内容を保護者に理解してもらう配慮が大切となるのである。

次の例は、公立C幼稚園（天津市）の運動会を前にしての職員会議の記録である。行事の中でも大きな行事である運動会の記録を通しての連携を考えてみたい。

運 動 会

昨年の実施状況

- ・リズム遊び、運動遊びにおいては、全園でリズム体操するなど、一学期から続いているものもあったが、実際は9月に入ってから活動となり、子どもたちの発達段階、興味にあったものを教師が考えて子どもたちに与えた。出発の時点では教師が考えたものであったが、途中子どもたちの発達段階、興味にあわせてその都度修正してまとめた。
- ・制作活動については、アーチや必要の小道具など、ほとんど子どもたちの手でやることができた。しかし、そのアイデアに関しては、子どもたちの力に合うもので、見栄えのするものを教師が考えていった。
- ・運動会は、年少組にとっては初めての経験であるが、年長組は、自分たちの競技の道具の出し入れなど、当番の子どもが出してやるなど、子ども主体の面から見ると、一昨年より一歩すすんだかたちとなった。
- ・運動会当日までは、練習というかたちで競技に参加することが多く、子どもたち自身が運動会以後運動遊びとして自由に遊んだ。また、年長組がしたおどりを年少組におしえてやるなどの機会を持つことができた。
- ・子ども主体の運動会であったかという観点からすると、まだまだやらされている傾向が強いのではないかという反省が必要である。

日頃の園生活

- ・運動遊びが苦手に進んでしようとしないうちの子がいる。
- ・すぐにくろんだり、体力が無い子もいる。
- ・挑戦しよう、やり抜こうという意欲がない。
- ・遊びのルールが守れない。
- ・落ち着いて話が聞けない。
- ・集中力、忍耐力に欠ける。

今年度の課題

- ・詰め込み、押し付けの運動会にならないように子ども主体の運動会でありたい。また、個々の子どもの日頃の力が発揮できるようなかたちにしたい。

ねらい

- ・運動遊びに興味、関心を持ち、新しいものへの挑戦意欲を持つ。
- ・体力増進をはかる。
- ・集団生活の中での望ましい態度がとれる。
- ・友達関係を広める。

これまでの活動

- ・一学期に行った遊び

運 動 遊 び	リ ズ ム 遊 び	ゲ ー ム 遊 び	当 番 活 動
かけっこ 鬼遊び リレー 固定遊具 鉄棒 ホール なわとび 巧技台 平均台 トランポリン ゴムとび	手遊び レコードを聞く 曲に合わせて楽器をたたく 曲に合わせて踊る 体操、フォークダンス をする 動きのリズムで表現遊びをする	ハンカチ落とし いすとりゲーム ケンケンゲーム じゃんけんゲーム	飼育物の世話 教材の準備手伝い 食事の準備手伝い お休み調べ カレーのかいもの
(運動力をつける)	(リズムの表現)	(遊びのルール、友達関係)	(責任ある仕事)

今年度の取り組み

- ・競技内容については、発達段階を踏まえた上で、子どもの興味にあったものを日頃の遊びの集約という形で考えていき、子どもと一緒に考えつくりあげていく。
子どもの力で計画、準備できるように教師が援助していく。
- ・競技の準備など、子どもの力でできるところはやり、教師は子どもの準備し易いような工夫を考える。
- ・マスゲームについては、幼児の発達段階にふさわしいものかどうか疑問である。見た目の美しさを求めて、幼児にとっての意味を考えればなくしたほうがよい。今年の夏は、オリンピックをテレビで見る機会が多かったと思われるので、子どもたちの関心をもったものを取り上げその子なりの力が発揮できるようなかたちを取りたい。
- ・障害走については、子どもたちが興味を持っている遊びを、日頃の遊びから選び、それを飛ぶ、くぐる、登る等の動きが含まれるような形にしていきたい。

(以下略)

運動会は行事の中においてもまさしくハレの舞台である。それ故に園の側も特別な扱いをする場合もあるようである。見せることへのこだわりから子ども不在の行事になり下がっていないかの反省がまず肝要である。また、保護者の側からすれば、運動会のイメージはといえば、自分の記憶の中にある小学校、中学校の運動会のそれであり、それを幼稚園にあてはめて見る場合が応々にしてある。生の姿、ありのままの活動を見せることは大切なことであるが、誤解を招かぬよう運動会のもつ意味、意義、そして方針を理解してもらう努力が必要となろう。

ここにあげた会議の記録は、運動会という行事に対して教職員が真摯な態度で臨まれていることが伺え、前回の反省を次回へ生かそうとする情熱が隔々に表れているものである。が、更なる要求をすれば、反省や取り組みにおいて、ひとりひとりの幼児の発達段階、運動能力、気持ち等を十分に把握できているかについても万全の配慮が必要であろう。そうすることによって、家庭における過度の期待からくる不安や負担、運動ぎらいや運動の苦手な幼児への心配りが解決できるであろう。また、保護者との連携、どこで協力を求めるか、参加してもらうかの確認もなされる必要があろう。

6. ま と め

本稿においては、家庭との連携に焦点をあて保育行事のあるべき姿を模索してきたが、それらを通して園が留意すべき事項として次のようなことがあげられよう。

①. 家庭との連携を深めるためには、教師自らが意欲的に行事に携わることである。

保育行事の中で我が子を他人や他のクラスと比較する保護者もいれば、一年間の保育に感謝し、成長を素直に喜ぶ保護者もいる。後者の輪が広がっていくことが理想であることはいうまでもない。この理想の実現のために、家庭との連携以前に大切なこととして教師自らの行事に対する取り組む姿勢があげられる。保育は心であるといわれるが、教師自身の情熱、意欲、努力が幼児に伝播し、やがて保護者の心を揺り動かすことになる。そこには、教師集団としての自己変革があり、質的充実があるのである。連携を強調する前に教師の姿勢自体を問わなければならない。

②. 保護者の保育に対する意識の変革と目を養うこと。

我が子を通して保育に対する判断、保育への評価を行うのが保護者であるということを教師は改めて確認しておかなければならない。従来の園だより、学級通信、掲示、解説等のみを通しての連携には限界があるということである。事実、調査園においても、行事前に周到な家庭連絡があり、運動会や生活発表会においては、種目や演目についての園側の解説があり、作品展においては、詳細な取り組み過程が掲示されている。しかし、解説の間の会場は騒がしいし、我が子の出番が終われば雑談が始まる。また、掲示にゆっくり足を踏み止めて読む保護者は少ない。

行事に対する既成のイメージ（学校行事の縮小）から脱却させるために、また、行事のもつ

本来的な意味、園の方針、方法、指導の経過、目指すものを保護者に伝える方法の検討もこれからの教師の仕事のひとつとして大きな意味をもつことを考えなければならない。

③. 家庭に返す行事、家庭に広める行事をチェックしてみることが大切である。

今回の調査においては予想外に家庭で実施されている行事の多さに驚くとともに、一方において、記念日、祝日、強調週間といった行事に対しては極めて低い実施率であった。園としては、社会的な習慣や月日で実施するのではなく、日常の保育の流れの中で必要と思われるものについては、教師が選択し、降園前のわずかな時間でも（ゲームや紙芝居をすることも一考であろうが）、事例のような試みをすることによって家庭での思わぬ会話が生まれてくるかけ橋をつくることができるかも知れないのである。

反面、園で行うより家庭で実施した方が効果が上がるとされる行事については、思い切って家庭で実施するよう働きかけてみることも大切である。

④. ひとりひとりの幼児がどのように行事を迎えているか、緊張感や不安感を与えていないかのチェックが必要である。

ともすれば、行事のあとの反省会は、全体の流れ、プログラム、進行、時間配分、会場の設営等、また、教師各人の反省、成果などに関心が向きがちであるが、行事の取り組みの段階で少なからず嫌がったり心配したりして行事を迎えている幼児もいるわけである。家庭連絡の大切さと、教師のひとりひとり幼児の個性や能力を見る眼の確かさが求められるところである。

⑤. 幼児の家庭事情に十分な配慮をし、幼児にあらわれる背景を考える。

今日の調査園は、運動会が再々の雨天延期で、止むなく平日に実施されるということになり、父親の参加は他の二大行事に比べて少なかった。その結果、参加できない保護者からの苦情を小耳に挟んだが、平素より、それぞれの家庭事情を把握しておくことが大切である。例えば、家族構成、共働きの有無、自営の割合、保育観などである。

公開、参加を原則とする場合、やはり、父親も含む最大公約数の保護者が参加できる日を選定することが大切であるし、家庭における幼児の状態を知っておくことは、園での幼児の行動理解の助けとなる場合があるのである。

⑥. 何のための行事かという基本的な問いかけと、謙虚な反省、評価が大切となる。

折々の行事は確かに幼児を伸長させるし、幼児の成長、発達を確認するための恰好の場となっていることは事実である。しかし、行事が保護者に見せることを目的に実施されるのであれば、幼児にとってはどれ位重荷になっているかわからない。幼児の生活にとって必要性があり、意味があるもの、そして生活を豊かにしていくものを「精選」することが大切なこととなる。

また、実施後に参加した幼児、保護者、教師それぞれの立場よりの反省と評価が大切である。教師は評価することにより更に次のステップへと高めていくことができるのである。評価によってのみ行事の改善が可能で、激しい時代の変化の中で対応できるものを生み出していくことが

できるのである。

以上のようなことに留意し、行事に取り組むことが大切である。

家庭や地域に開かれた行事は、保護者にとって幼稚園教育理解の大きなウェイトを占めるが故に、教師には、行事に表れる幼児の活動の中から表面的でない成長、発達の真の姿を見抜く目を保護者の中に養っていく努力が新たに課せられる。そして、そのための研鑽を益々積み重ねることを願って止まない。

註①フレーベル、荒井武訳『人間の教育』下、岩波文庫、昭和39年、7頁

②箇条書きで3つ以内自由記入、回答幼稚園数653ヶ園、昭和59年9月17日から10月27日までの期間に実施されたもの。

③森上史朗『園と家庭・地域との連携』第一法規、昭和53年、15頁

④拙稿「幼児に必要な行事とは？」（『仏教保育カリキュラム』平成元年、Sept）すずき出版

「浄土宗保育の実態—行事を中心に—」（『教化リサーチ』第10、11合併号）佛教大学浄土宗文献センター、平成元年

⑤西ノ内多恵「行事」（『保育学大辞典』第2巻）第1法規、昭和58年

⑥相馬和子「保育と行事」（『日本保育学会第35回大会研究論文集』）昭和57年

小林由憲「幼稚園における行事についての一考察」（『日本保育学会第39回大会研究論文集』）昭和61年

小林由憲「保育行事についての調査研究」（『日本保育学会第40回大会研究論文集』）昭和62年

柏原栄子「幼稚園における運動会の一考察」（『日本保育学会第43回大会研究論文集』）平成2年

日浦直美「幼稚園と家庭の連携に関する研究(1)」志熊淑子、村田陽子「幼稚園と家庭の連携に関する研究(2)」（『日本保育学会第43回大会研究論文集』）平成2年

森樺他「行事場面における保育者の行動特性」（『日本保育学会第44回大会研究論文集』）平成3年

永井孝子、井上千枝美、下平喜代子「幼児の行事の体験と遊びの関連その1」（『日本保育学会第45回大会研究論文集』）平成4年

村田陽子「行事についての一考察」（『日本保育学会第45回大会研究論文集』）平成4年
〔付記〕本稿は、平成2年度佛教大学学会特別助成金による研究の一部である。

参考文献

1. 岡田正章他『日本幼児保育史』第4巻 フレーベル館 昭和46年

2. 藤田復生『行事とその計画』 明治図書 昭和48年
3. 関口準『年中行事の資料100』 チャイルド本社 昭和52年
4. 岡田正章, 森上史朗, 中田カヨ子『園と家庭・地域との連携』第一法規, 昭和53年
5. 文部省『幼稚園教育百年史』 ひかりのくに 昭和54年
6. 森上史朗, 阿部明子編『子どもが参加する行事』 チャイルド本社 昭和56年
7. 阿部直美『園行事 資料と展開』 チャイルド本社 昭和57年
8. 大場牧夫, 平井信義, 森上史朗, 『望ましい行事と生活』 フレーベル館 昭和58年
9. 拙著『年中行事一遊びと話一』 探究社 平成元年
- 10.『保育研究』Vol. 3 NO. 4 WINTER「特集 行事を通して考える」 相川書房 昭和58年
- 11.『現代と保育』16, 「特集 行事をとらえ直す」 ひとなる書房 昭和60年
- 12.『現代保育』Vol.33 チャイルド本社 昭和60年
- 13.『保育研究』Vol.12 NO. 1 SPRING 「特集 家庭との連携を考える」 建帛社 平成3年
- 14.『家庭との連携を図るために』 文部省 平成4年
- 15.『初等教育資料』NO.582 東洋館出版社 平成4年

参考資料

アンケート

子どもさんのクラスは、(年少・年中・年長)

1. この1年を振り返っておうちの方が思い出に残っている行事に○印をおつけ下さい。(いくつでも結構です)
母の日保育参観・父の日保育参観・夏休みお楽しみ会・なかよしまつり運動会・作品展・生活発表会
2. この1年を振り返って子どもさんが喜んでいた行事に○印をおつけ下さい。
また、イヤがっていた行事に△印をおつけ下さい。
母の日・父の日・七夕・避難訓練・健康診断・夏休みお楽しみ会・なかよしまつり・たこあげ大会・遠足
3. ご家庭で実施されている行事に○印をおつけ下さい。
七夕・七五三・お月見・餅つき・節分・ひなまつり・花まつり・クリスマス・端午の節句・母の日・父の日・敬老の日・お彼岸(墓参り)・お盆・誕生日
4. ご家庭で話をしてあげた行事に○印をおつけ下さい。
みどりの日・憲法記念日・子どもの日・虫歯予防デー・時の記念日・秋分の日・体育の日・文化の日・勤労感謝の日・天皇誕生日・元日・成人の日・建国記念の日・春分の日

5. この1年間参加(出席)された行事に○印をおつけ下さい。

母の日・父の日・個人別懇談会・クラス懇談会・成道会・ねはん会・花まつり・勢至まつり・第一回講演会・第二回講演会・御忌・仏教教養講座

6. 次の仏教行事の中でご家庭で話題になったもの(子どもさんが話をしたもの)に○印をおつけ下さい。(いくつでも結構です)

花まつり・勢至まつり・成道会・ねはん会・おまいり(毎週月曜日)

7. 運動会についてお聞きます。

1) 運動会前、御家庭で子どもさんはどのような様子でしたか。

楽しみにしていた・よく話をしていた・イヤがっていた・心配していた・いつもと変化
なかった・その他()

2) 運動会終了後、子どもさんに何か変化がありましたか。

・あった(具体的に)
・なかった

3) 誰と参加されましたか。(子どもさんからみて)

父・母・祖父・祖母・兄・姉・弟・妹・親戚の人・その他()

8. 作品展についてお聞きます。

1) 作品展前は、御家庭で子どもさんはどのような様子でしたか。

楽しみにしていた・よく話をしていた・イヤがっていた・心配していた・いつもと変化
なかった・その他()

2) 作品展終了後、子どもさんに何か変化がありましたか。

・あった(具体的に)
・なかった

3) 誰と参加されましたか。

父・母・祖父・祖母・兄・姉・弟・妹・親戚の人・その他()

10. 生活発表会についてお聞きます。

1) 生活発表会前は、ご家庭で子どもさんはどのような様子でしたか。

楽しみにしていた・よく話をしていた・イヤがっていた・心配していた・いつもと変化
なかった・その他()

2) 生活発表会終了後、子どもさんに何か変化がありましたか。

・あった(具体的に)
・なかった

3) 誰と参加されましたか。

父・母・祖父・祖母・兄・姉・弟・妹・親戚の人・その他()

4) 生活発表会をご覧になった折どのようなことをお考えになりましたか。

近い心情に三つまで○印をおつけ下さい。

- ア) 幼稚園の教育方針がよくわかった
- イ) 集団行動がきっちりとれていた
- ウ) 自分の子どもと他のこどもを比較していた
- エ) 幼稚園生活の一端をかいまみることができた
- オ) わが子の当日の出来ばえが気になった
- カ) 家庭では見られない姿をみることができた
- キ) わが子のクラスと他のクラスを比較していた
- ク) 担任がどのように指導しているか気になった
- ケ) ここまで成長したことを幼稚園（担任）に感謝の気持ちをもった
- コ) 一年間の成長が認められた
- サ) 日常の姿がそのままていた
- シ) 生活発表会の意義がわかった
- ス) わが子がどのような役（或は楽器の担当）をしているか気になった
- セ) 質素な生活発表会だと思った
- ソ) 一日で全てのクラスを見たかった

ご協力有難うございました。